

学校問題の解決に当たっては、その内容によっては学校だけの力ではなく、福祉や医療など様々な機関との連携を考えていく必要があります。地域とのつながりで学校問題解決を図ることについて、民生児童委員代表から伺いました。

### <民生児童委員及び主任児童委員の地域での働き>

民生委員・児童委員（以下、「民生児童委員」とする。）は、厚生労働大臣より委嘱を受けています。その地域に3年以上住んでいることが委嘱の条件であり、73才までの定年制になっています。

自らも地域住民の一員として、地域の皆様からの様々な相談に応じ、相談者の立場に立って各種制度の紹介や必要なサービスを利用するための支援等、心配ごとや困ったことを解決するための手伝いをします。

また、行政などの関係機関と連携しながら、乳幼児の子育て支援に関する活動、高齢者の福祉に関する活動、障害者の福祉に関する活動、学齢児童の福祉に関する活動、生活に関する活動など地域の実情に即した福祉活動を展開しています。

妊産婦、ひとり親家庭はもちろん、子育て、虐待、いじめ、不登校、非行など子供に関するあらゆる心配ごとの相談にのり、健やかに育てる手伝いもしています。民生児童委員の中には、児童に関することを主に担当する主任児童委員もいます。

### <学校問題の未然防止と学校と地域のつながり>

「民生児童委員の方は年上であり相談しづらい。」と言われたこともありますが、民生児童委員にとっては児童・生徒は孫の世代、保護者は子供の年代が多く、それぞれのよき理解者になることができます。また主任児童委員はPTA役員の経験者も多く、学校と保護者との関わりについても強く問題意識をもっています。

子供を巡る様々な問題の背景には、社会教育の希薄化、家庭の教育力の低下の中で育てられた子供たちが、学校等で何か問題を起こし、教師から指導されても家庭の協力が得られないという悪循環があるように思えます。ただし大きな問題につながるような状況はまだ一部です。問題が起こる前に、その子供やその家庭を知ることが大切です。そのためにも地域からの情報が必要ですが、直接地域の方々に聞こうとしてもなかなか難しいと思います。

このようなときは、民生児童委員に相談するとよいでしょう。当該児童・生徒や保護者との関わりがある場合もありますし、直接関わりがなくてもその知り合いとのつながりがあれば、情報が集まりやすく、知り得る立場にあります。子供の健全育成にとって不適切な環境にあることが分かれば、適切な機関等を紹介することもできます。

### <早期解決のための努力と地域のつながり>

学校と保護者との間で問題が発生したら、学校として捉えている事実や子供の実態等の情報をいかにうまく保護者に伝えるかが大切になります。そして、保護者の心情を理解し納得した上で、学校の立場も理解してもらうこと、その努力をすることです。

保護者の態度によっては、相手を否定的に捉えなくなる場合もあるかもしれません。そのような中で学校関係者だけで対応しようとしても、ますます状況が悪化することもあります。第三者として民生児童委員などが関わることで展開が変わることがあります。そして保護者にも学校の立場や考えを理解してもらうことも可能となります。個人情報、守秘義務は十分承知しておりますので遠慮なく御相談いただきたいと思います。

保護者と学校との間の問題がなかなか解決できないときは、地域とのつながりの活用を選択肢の一つに加えていただくことをお勧めいたします。